

## ＜今日の説教のポイント 使徒言行録2章37～42節＞

ペンテコステ（聖霊降臨節）が私たちにとって意味していることは？

### 1 そもそも「ペンテコステ」とは何か？

使徒言行録2章に記された出来事を指します。現象としては不思議極まりない出来事です。しかし見た目の不思議さではなく、その不思議に思われる出来事が持つ意味を考えなければなりません。

### 2 (37) 「人々が聞いて大いに心打たれたこと」とは何か？

37節の「これを聞いて」の「これ」は、その前に記されたイエス・キリストの死と復活の出来事を指しています。それを聞いて人々は驚き、ペトロたちに「では、自分たちはどうしたらいいのか」と問いました。なぜでしょうか？ イエス・キリストの死と復活の出来事が持つ意味を理解したからです。神様が遣わされたイエス様を殺してしまった（私たち人間は罪深い！）、しかし、そのイエス様を神様がよみがえらせてくださった（神様は私たちの罪を赦して下さい！）、この二つのことを深く理解したからです（「知る」と「理解する」の違い）。

### 3 (38-39) 神が起こされた恵みの業に応じて生きる者となる。洗礼。

ここに教会がクリスマスとイースターと共にペンテコステを大事に祝い喜び続けるようになった理由があります。イエス・キリストの復活によって憐みに満ちた神様の存在を理解し、「死で終わりではない」という新しい希望を持って歩める人生を神様が用意して下さいました。この神様を信じ、この神様を自分の中心に置いて生き出す時に持てる新しい希望です。この後ペトロが示した洗礼は、救われるための理由ではなく、神様による救いの道が示されたことを理解した者がその神様への感謝を示す最初の一步を示す行為でもあります。ここに記された人々の姿がそのことをよく表しています。

### 4 この聖書の神様をいつも覚えつつ、神の希望を持って生きよう！

問題なく人生を歩めている時に何も必要ないと思うのは当然です。問題が起こって初めて私たちはおののきうろたえます。しかし、たとえそれまでの理解では乗り越えられない問題にぶつかった時にも恐れる必要はないのです。さらに大きな神様の視点から考えることができるようになるなら、前とは違う道が用意されていることも見えて来るからです。聖書の神様を理解し始めた時に分かって来る恵みです。